



マテリアリティ

地域社会との共生

■ ヤクルトのアプローチ

ヤクルトグループは、「人も地球も健康に」のコーポレートスローガンのもと、地域と共生し、環境と調和しながら事業活動を継続することが重要だと認識しています。ヤクルトレディによる商品のお届けという独自の地域ネットワークも活かし、「安全・安心」な地域づくりに積極的に参加し、持続可能な社会の実現に向けて地域社会の発展に貢献していきます。

■ リスクと機会

リスク	機会
<ul style="list-style-type: none"> ● 商品の安全・健康被害による事業の中断 ● 商品情報開示不足による信頼性低下 ● 安全な労働環境の不備、労働力不足による事業の中断 ● 環境規制強化、大気汚染、生物多様性破壊等による事業の中断 	<ul style="list-style-type: none"> ● 「安全・安心」、健康的な商品提供による競争力向上 ● 充実した商品情報提供による信頼性向上 ● ダイバーシティ推進、働きがいのある職場づくりによる労働力確保 ● 環境配慮車両・自動販売機導入による環境価値向上

■ 方針・ガイドライン・目標

- ヤクルト倫理綱領・行動規準(7. 社会への貢献)
- ヤクルトグループ社会貢献活動方針

■ 行動目標と実績

行動目標	実績
● 出前授業、健康教室の推進 ^{※1}	▶ 出前授業：12,700回実施・1,069,396人参加(日本・海外合計) ▶ 健康教室：221,747回実施・7,414,560人参加(日本・海外合計)
● 愛の訪問活動、地域の見守り・防犯協力活動の推進	▶ 愛の訪問活動：51の販売会社で実施・対象高齢者数35,279人 ^{※2} ▶ 地域の見守り・防犯協力活動：101 ^{※3} の販売会社で932の自治体等と連携して実施
● スポーツ振興の推進	▶ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各活動を自粛
● 自治体等との協働事業の実施	▶ 国立市と災害時の水供給について協定を締結 ▶ 「朝食1人前」(朝ごはん活動)山間部の貧困家庭の子どもたちに朝食を提供する公益活動
● 工場祭の実施による地域との交流	▶ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、各活動を自粛

※1 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、日本・海外において活動を自粛しました。集合型で行う場合は感染防止策を徹底しています。日本の一部の販売会社、海外の一部の国と地域では、オンラインを活用して実施しました。
 ※2 新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して活動を実施しました。
 ※3 ホールディングス会社傘下の販売会社を含みます。

■ 課題と対策

ヤクルトグループ独自の販売組織であるヤクルトレディは、手から手へ真心をこめて商品をお届けしながら、健康情報も合わせてお伝えしています。お客さまとのふれあいを大切にすることで、地域社会の健康や「安全・安心」な生活づくりに貢献しています。

しかし、新型コロナウイルス感染症の拡大により、今までと同様の活動をするのが難しくなりました。この課題への対策としては、感染防止策を徹底しながら、お届けを継続することに加え、ウェブサイト「Yakult BASE」で健康に寄与する情報を発信したり、情報誌「#よむヤクルト」をお渡しする等、コロナ禍においても地域の皆さまの健康に貢献する活動を推進しています。

担当役員メッセージ



取締役 専務執行役員
食品事業本部長

林田 哲哉

ヤクルトの成長に大きく貢献した「地域密着」

ヤクルトグループは、日本全国に101の販売会社があり、地域に根差した事業活動を行っています。1963年に始まったヤクルトレディによる宅配システムは、商品をただ届けるだけでなく、おなかの健康に寄与する商品の特性をきちんとお伝えし、理解して飲んでいただくことで地域社会の健康づくりに貢献したいという想いから誕生しました。訪問してお届けすることができないお客さまに対しては、量販店や給食等の販売チャネルで商品を提供しています。

店頭と宅配のどちらにも共通するのが「地域密着」という考え方です。地域社会の健康課題に対して、腸の

「健康」を通じ、私たちに何ができるのかを、常に考えています。

一人でも多くのお客さまに届けたい「健康」

「商品」だけではなく「健康」をお届けするための取り組みとして、小学校等で腸の大切さや体に良い生活習慣をわかりやすく説明する「出前授業」や、地域の方々に腸の大切さや季節の健康情報をお伝えする「健康教室」を開催しています。また、取引先での栄養相談会や、量販店店頭で飲用価値をお伝えする「価値普及活動」等を行っています。

他にも、国内においては、腸の健康だけではなく、お肌の健康にも寄与したいという想いから、ヤクルトレディ・ヤクルトビューティによる化粧品の取り扱いや美容情報のお届け、専門スタッフが地域のお客さまに対してお肌のお手入れ方法をお伝えする「美容教室」の開催も行っています。

地域とともにあり続けるヤクルト

近年ますます必要性や価値が再認識されている「地域のつながり」。国内では、一人暮らしのお年寄りの安否を確認する「愛の訪問活動」、自治体や警察と連携して行う「地域の見守り・防犯協力活動」等、「安全・安心」な地域づくりに貢献する活動にも積極的に取り組んでいます。これらの活動を支えるのは地域の販売会社とヤクルトレディであり、地域の皆さまに貢献したいという想いから成り立っています。

これからも、当社グループに従事する一人ひとりが、お客さま一人ひとりに心を寄せ、地域社会と共生する事業活動を推進してまいります。



取締役 専務執行役員
国際事業本部長

平野 晋

世界に広がる「代田イズム」、「地域とともに」

人々が「健康」を願う気持ちは普遍のものであり、ヤクルトが貢献できる地域は日本にとどまりません。1964年に、初めての海外進出として、台湾ヤクルトが営業を開始しました。その後も、地域に根差し「健康」を普及していくという考え方は広がり続け、現在、アジア・オセアニア、米州、欧州等、海外29の事業所と27の工場において39の国と地域の人々にご愛飲いただいております。約5万人のヤクルトレディを含む7万3千人以上の従事者が活躍しています。

世界の一人でも多くの人に「健康」をお届けしたいという私たちの想いは共通のものであり、日本と同様に、商品のお届けだけでなく、「健康教室」や「価値普及活動」は各国・地域で行われています。

各国・地域、多様な地域社会との調和を目指して

世界にはさまざまな国と地域があり、その人種・言語・文化・慣習・風土等の多様性は日本の地域差以上に大きいものがあります。しかし、人々が健康を願う気持ちは同じです。事業を展開していくためには、各国・地域の人々の健康づくりに貢献することを基本にしながら、就労の機会提供や女性の社会進出等の経済的側面での貢献、食育・芸術・スポーツ振興等の教育・文化面での貢献、また、植林活動、省エネルギー等の環境改善への貢献、等々、地域社会への貢献が大切です。

そのために私たちヤクルトは、現地に赴き時間と手間をかけ、組織、流通体制、地域密着のコミュニケーションとネットワークづくり等々、人々の健康づくりへの普及活動の環境を整えていきます。まさに、「農耕型」の事業展開を一步一步です。時間と手間を要する事業展開ですが、それぞれの地域社会への調和、そして人々から信頼とご支持をいただく最善の道であると考えています。

世界の一人でも多くの人に、一日でも早く、お届けしたい

世界各国・地域への広がりにより、何らかの形でヤクルトの乳製品を手にしていただける人々は世界の人口約79億人に対して、ヤクルトが進出している国・地域の人口(45億人)でみると約56%、そのうち販売対象人口(24億人)でみると約30%までになっています。しかし、一方では、まだまだ私たちヤクルトがその「健康」をお届けできていない人々がたくさんいらっしゃるということです。

私たちヤクルトは、世界の一人でも多くの人に、一日でも早く、その「健康」をお届けするためにも、さらなる販売地域の拡大に取り組み、引き続き一人ひとりのお客さまを大切に、これからも世界各国・地域の人々・社会に寄り添い続けます。

ヤクルトグループ社会貢献活動方針

地域社会の一員として、地域の文化・慣習を尊重し、地域社会と協調しながら企業活動を推進しています。また、「良き企業市民」として社会に寄与することは企業の責任であると考え、従業員一人ひとりが積極的に社会貢献活動に取り組んでいます。こうした活動は、「安全・安心」な地域づくりや健康な生活習慣の定着等、社会課題の解決にもつながっています。

2018年3月には「ヤクルトグループ社会貢献活動方針」を策定しました。本方針を基盤とし、今後は各活動をより深化させていきます。

ヤクルトグループ社会貢献活動方針

ヤクルトグループは、社会に寄与する「良き企業市民」として、地域社会と協調しながら積極的に社会貢献活動を推進していきます。

1. 人々の健康で楽しい生活づくりにお役立ちすることを使命とし、活動します。
2. 地域に根付いて活動するヤクルトグループの特長を活かして、社会課題の解決や文化・スポーツの振興に取り組みます。
3. ステークホルダーとの対話を大切に、協働・連携します。

策定 2018年3月20日

コミュニティへの投資額

ヤクルトグループ社会貢献活動方針に則り、地域社会の発展に寄与する活動を積極的に行っています。2021年度は、約1億9千万円を地域への貢献活動に使用しました。

予防医学・健腸長寿への貢献

健康情報の提供

ヤクルトレディによる健康情報の提供や、健康に関するテーマで専門家に講演していただく「健康フォーラム」を実施しています。また、健康情報誌『ヘルシスト』の発行や、各種資材等を活用し、地域の皆さまの健康に積極的に貢献しています。

関連情報 ▶ P.72 『ヘルシスト』▶▶▶

■ オンラインツールの開発

非対面・非接触でも健康情報の発信を継続するための健康教室、出前授業のオンラインコンテンツ化を予定しています。現在、学校教育のICT化を鑑みて、双方向コミュニケーションを取り入れたコンテンツの開発を進めています。コンテンツ開発後は、一部地域でテスト検証した後、2022年度中の全国導入を予定しています。

※ 現在、一部の販売会社では独自でオンラインの出前授業・健康教室を実施しています。

■ 出前授業

当社支店や各地域の販売会社の社員が小学校等に出向き、「出前授業」を行っています。腸の大切さや「いいうち」を出すための生活習慣について、模型等を活用して、わかりやすく説明します。この取り組みは高い評価を受け、日本食育学会誌にも好事例として掲載されました。また、2015年には文部科学省主催の「青少年の体験活動推進企業表彰」審査委員会奨励賞を受賞しました。

海外でも多数の国で実施しています。2021年度の日本全国の実施回数は2,472回、参加者数は111,541人でした。海外では、実施回数は10,228回、参加者数は957,855人でした。

■ 健康教室

各地域の販売会社社員等が講師となり、「健康教室」を開催しています。センター(ヤクルトレディの販売拠点)や公共施設等を利用して、腸の大切さやプロバイオティクス、季節に合わせた健康情報等、幅広いテーマで実施してきました。近年ではその範囲を取引先(チェーンストア、受託給食会社等)にも広げ、健康教室のほか栄養相談会も開催しています。

2021年度の日本全国の実施回数は11,471回、参加者数は111,442人でした。海外では一部の国と地域でオンラインも活用し、実施回数は210,276回、参加者数7,303,118人でした。

※ 2021年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、日本・海外において、出前授業、健康教室ともに、活動を自粛しました。集合型で行う場合は、感染防止策を徹底しています。日本の一部の販売会社では、オンラインを活用して活動しています。海外では、香港、フィリピン、シンガポール、インドネシア、オーストラリア、インド、広州、中国、北京、ブラジル、メキシコ、イギリス、ドイツ、オランダでオンラインを活用した活動を実施しています。



健康教室(インドネシアヤクルト)

■ 大腸がんに対する情報提供

医薬品事業に関連する社会貢献活動として、大腸がんの患者さんやそのご家族に向けて、病気や治療についてわかりやすく説明したパンフレットやウェブサイトで知識を深められる機会を提供しています。

ウェブサイトではがん専門医の監修のもと、大腸がんに関する基本的な情報に加え、医療従事者へのインタビュー、大腸がんに関するQ&A、各種トピックス等を配信しています。

2021年度は、昨年度に引き続き、大腸がん検診の受診を啓発するトピックスを配信しました。また、厚生労働省等の公的機関から有用な情報が公表された際に、いち早く当サイトで紹介することで患者さんやご家族への普及を図りました。このほか、最新疫学データの公表等にもないサイト内の情報を更新しました。2012年3月の開設以来、これまでに累計1,500万人を超える皆さまにご覧いただいています。

WEB ▶ 大腸がん情報サイト ▶▶▶ <https://www.daichougan.info/>

■ 美容教室

健康と美容は密接に関係しています。健康に寄与する飲料・食品・医薬品とともに、化粧品を取り扱うヤクルトでは、美容教室を継続して実施しています。

販売会社社員やヤクルトビューティがお客さま、地域にお住まいの方々や法人に対して美容情報を提供したり、お肌の悩み相談会等を行っています。



美容教室

■ 予防医学・健腸長寿への貢献

■ ピンクリボン活動

日本では、乳がんの早期発見・治療の啓発活動を行っている認定NPO法人 J.POSHのオフィシャルサポーターになり、ピンクリボン活動に協力しています。

また、シンガポールヤクルトは2021年10月、同国の健康増進庁(Health Promotion Board)の乳がん予防の取り組みを告知するステッカーをヤクルト製品に貼付するキャンペーンを実施しました。同庁の取り組みは、乳がんをはじめとするさまざまな病気の予防策として健康スクリーニング検査を奨励するとともに費用の一部を補助するものです。また、同年12月には、シンガポール乳がん基金(BCF)と協働し、同国のシンボルであるマーライオンを、ピンクリボン活動のピンク色にライトアップしました。乳がんは、シンガポールでは罹患数が多い「がん」の一つであり、毎年2,000人以上が乳がんと診断され、400人以上の方々が亡くなっており、シンガポールヤクルトでは、BCFとの協働による啓発活動を続けています。



商品に添付した健康増進庁のステッカーを説明するヤクルトレディ(シンガポール)

■ 小児心臓病基金への支援(ベトナムヤクルト)

ベトナムヤクルトは、貧困層に対し、小児心臓病の早期発見と治療を目的とした「ベトナムの心」基金の活動に賛同し、寄付に協力しています。近年、子どもの先天性心臓病が増えており、貧困家庭では莫大な手術費用のために治療をあきらめてしまう場合があります。この基金は子どもの命とその家族の未来を助ける非常に意義のある取り組みで、2021年度は、約550万円を寄付しました。この寄付金により、小児心臓病の無料検診ならびに貧困層で心臓病を患う子どもの手術費用の一部を負担しています。



「ベトナムの心」基金 子どもを励ますイベント風景

地域の「安全・安心」への貢献

■ 愛の訪問活動

「愛の訪問活動」は、ヤクルトレディが商品をお届けしながら、一人暮らしの高齢者の安否を確認したり、話し相手になるという活動で、1972年から続けています。この活動は、福島県郡山市の一人のヤクルトレディが、誰にも看取られずに亡くなった一人暮らしの高齢者の話に胸を痛め、担当地域に暮らしている同じような高齢者に、自費で「ヤクルト」をお届けしたことが始まりです。販売会社や地域の民生委員の方々はその思いに共鳴し、自治体も動かして「愛の訪問活動」として、全国的に活動の輪が広がっていきました。

2021年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、お届け前の検温、手指の消毒、短時間での受け渡し等、感染防止を徹底しながら、高齢者のお宅に商品をお届けし安否確認に努めました。

2022年3月現在、全国120の自治体等から要請を受け、約2,600人のヤクルトレディが約35,000人の高齢者のお宅を訪問しています。

海外では、韓国ヤクルトにおいて一人暮らしの高齢者約3万人の安否を確認する活動を継続して行っています。

■ 地域の見守り・防犯協力活動

担当地域に毎日商品をお届けしているヤクルトレディは、地域のすみずみまで目が届くことから、全国932の自治体、警察等と連携して地域の「見守り」や「安全・安心」へのお手伝いをしています。お客さま宅に異変を感じたヤクルトレディが警察署に通報し、署員がお客さまを発見・救助した等の事例もあります。2022年3月現在で、全国101社*の販売会社で組織がつくられ、地域の「安全・安心」に貢献しています。

また、中央研究所では2015年から、「ピーポ君の家」に協力しています。子どもたちが登下校時や下校後に「声かけ、ちかん、つきまとい」等の被害を受けたり、身に危険を感じたりしたときに、助けを求めることができる緊急の避難場所に指定されています。

* ホールディングス会社傘下の販売会社を含む。

■ 障がい者支援施設への支援

各都道府県の遊技事業協同組合を通じ、福祉施設を利用する障がい者の方々へ労働機会を提供することで、社会活動への参画を支援しています。遊技場で来店客に配布するヤクルト製品に、年賀や暑中見舞い等のあいさつのシールを貼り付ける作業を依頼しています。2021年度は20道府県都72施設に、合計約74万本を依頼しました。

■ 自動販売機による社会貢献活動

ヤクルトグループでは2022年3月末時点で、日本国内に約4万2,000台の自動販売機を設置しています。

これらの自動販売機の中には、地域の皆さまや支援が必要な方々に役立っている社会貢献型自動販売機もあります。

また、すべての人にとって使いやすいユニバーサルデザインの自動販売機や、大地震等の災害時に機内の商品を無償提供する災害救援型自動販売機、防犯活動に役立つ監視カメラのついた防犯型自動販売機を設置しています。

このほかにも、キリンビバレッジ株式会社と協業して、売上金の一部を公益財団法人日本対がん協会に寄付するピンクリボン自動販売機の設置を進めており、2021年度には全国で4台を設置しました(稼働合計316台)。



ピンクリボン自動販売機

■ 災害支援活動

地域の「安全・安心」を目指すヤクルトでは、積極的に災害支援活動を行っています。

茨城工場・富士裾野工場・兵庫三木工場では、「災害時における応急給水に関する協定書」等の協定を締結しています(五霞町、裾野市、三木市)。海外においても、地震や台風等の自然災害が発生しやすい地域にも生産拠点があることから、災害発生時に速やかに支援を行うことができるよう、体制を整えています。

中央研究所では、災害発生時における避難者への生活用水の供給に関する協定を国立市と締結しています。また、国立市内にある消防署の出張所2か所において、24時間体制で防災活動を行っている消防署員に対し、大規模地震等の災害が発生した際に、中央研究所に備蓄している生活用水を供給する協定を締結しています。

■ 高齢者の見守り(中国ヤクルトグループ)

高齢者の健康を守るという考えのもと、2021年旧暦9月9日の中国重陽節(中国“敬老の日”)に、上海の3つの宅配センターのヤクルトレディが、担当地域の一人暮らし高齢者48人のお宅を訪問しました。生活・健康状況を確認し、腸内健康やプロバイオティクスの効果について紹介して、健康ギフトを渡しました。また、3か所の老人ホームで「益起楽享生活」と題した茶話会を開催し、計108人の高齢者に消化管のはたらきを紹介した後、指を使った運動を行いました。



老人ホームを訪問

健康増進・スポーツ振興

ヤクルトグループは、各種スポーツの振興と地域・社会貢献活動を積極的に行うことで、健康増進に寄与するよう努めています。

■ 野球教室

プロ野球のシーズンオフに、「東京ヤクルトスワローズ」の現役選手による野球教室*を全国で開催しています。また、NPO法人「つばめスポーツ振興協会」を2005年に設立し、東京ヤクルトスワローズOBによる野球教室*を全国で開催しています。

* 2021年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、野球教室はすべて開催を中止しました。

■ 投げ方教室

近年、小学生の運動能力の低下、特に投力の低下が問題視されています。ヤクルト球団では小学校・幼稚園からの依頼を受け、「投げ方教室」を中心とした出前授業を開催しています。2020年度以降はコロナ禍により回数は減少したものの、感染対策を徹底して開催を続けています。2021年度は29回開催し、2,712人が参加しました。2022年度(5月現在)の開催回数は前年比で倍増しており、コロナ禍以前の活動に戻ってきています。



投げ方教室

■ 陸上競技部・ラグビー部

陸上競技部は1972年に創部し、各種駅伝やマラソン大会に出場しています。また、1988年から選手と市民ランナーのふれあいの場として「ヤクルトランニング教室」*を毎年開催しています。

ラグビー部「ヤクルトレビズ」は1980年に創部し、ジャパンラグビートップイーストリーグAのリーグ戦に参加しています。また、埼玉県内の「戸田ラグビー祭」*や東京都内や千葉県内の小学校での「タグラグビー教室」*の実施を通じて、ラグビーの普及活動・健康増進に貢献しています。

* 2021年度については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「ヤクルトランニング教室」、「戸田ラグビー祭」、「タグラグビー教室」はすべて開催を中止しました。

環境保全

■ 清掃活動

各工場では、工場周辺や近隣の河川や公園、神社等の環境美化活動を自主的に実施しています。2021年度は79回の実施、776人の参加となっています。また、地域主催で行っているグリーン活動等にも積極的に参加しています(新型コロナウイルス感染拡大防止のため地域主催活動への参加は中止としました)。

中央研究所では、所員によるグリーン活動を毎月第2木曜日に実施しています。新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施回数は減少しましたが、少人数によるグリーン活動を実施しています。その他、子どもを対象に自然に親しみ楽しさを体験してもらう「多摩川探検隊」等、次世代育成につながる活動にも積極的に参加しています。

■ リサイクルフェア

本店ビルでは、社会貢献活動の一環として毎年「リサイクルフェア」を開催し、社員からの寄付金と書籍の売却益の全額を公益財団法人オイスカの「子供の森」計画に寄付しています。2021年度は6万9,506円を寄付しました。また、マッチングギフト(集まった寄付金に対して会社が同額を上乗せすること)として、同計画に同額を寄付しました。

貧困問題への支援

ヤクルトグループの企業理念「私たちは、生命科学の追究を基盤として、世界の人々の健康で楽しい生活づくりに貢献します。」は、事業活動そのものがSDGsの各目標への貢献に関わっています。SDGsの目標の一つでもある貧困への対応は、当社グループにとっても重要な課題と認識しています。

脆弱な立場にある人々に対して、当社商品の提供や、支援活動を通じて、「誰一人取り残さない」健康な生活づくりを目指し、課題解決への貢献に取り組んでいきます。

■ 高齢者の貧困に対する支援(ドイツヤクルト)

ドイツヤクルトは、2020年2月から、デュッセルドルフで貧困に苦しむ高齢者をケアする地域コミュニティ「ヘルツヴェルク」を支援しています。「ヤクルト」の寄贈はもちろん、活動への理解を促進するため、ヘルツヴェルクのロゴを記載したクリスマスカードを作成、カード1枚の送付につき、ヤクルトは2ユーロをヘルツヴェルクに寄付しました。



ヘルツヴェルクのロゴを記載したクリスマスカード

■ 貧困家庭の児童を支援(マレーシアヤクルト)

マレーシアヤクルトでは、6つの小学校において、貧困家庭の児童30人を対象に生活必需品を寄贈するとともに「ヤクルト」を提供しました。また、孤児院、洪水被害者、貧困家庭への支援活動として、2021年度は計11,650本の「ヤクルト」を提供しました。



孤児院への「ヤクルト」の提供

■ 重症疾患の子どもたちを支援(広州ヤクルト)

広州ヤクルトでは、広州市で病気の児童を支援する団体を通じて、計11か所の病院に入院している560人以上の重症疾患の児童に、生活用品を寄贈するとともに「ヤクルト」を提供しました。また、広州ヤクルトの社員43人が、病児用ウイッグのために頭髪を寄贈しました。

■ 「朝食1人前」(朝ごはん活動)を支援(中国ヤクルト)

中国ヤクルトは、同国のメディアグループ「第一財經」が実施する山間部の貧困家庭の子どもたちに朝食を提供する公益活動「朝食1人前」(朝ごはん活動)に参加しています。この活動は、参加する企業が特定の日の朝食代を寄付するもので、中国ヤクルトは、2013年から毎年5月29日の世界腸健康デーに1万元の協賛を続けています。